

第6回高知県社会教育委員会（平成31年4月1日～平成33年3月31日任期）会議概要

令和2年10月21日（水）13:15～14:30

高知県庁西庁舎2階 教育委員室

本町ビル2階 会議室

出席委員（時久恵子、竹中利文、
川田朋子、川田米實、
徳弘朋子、吉富慎作、
廣末ゆか、内田純一）

【意見交換会】

1 開会（13:15～13:17）

高知県教育長挨拶

2 提言（13:17～13:20）

高知県社会教育委員長より高知県教育長へ

テーマ：地域全体で子どもたちの成長を支える社会教育のあり方について

～「厳しい環境にある子どもたち」を社会教育の視点から支える方策～

3 提言内容についての説明（13:20～13:25）

（委員長）

「家庭教育支援」、「多様な居場所づくり」、「生活・文化・自然体験の機会」の各サポートが重要であり、それをさらに進めていくために、「地域づくり・つながりづくり」のサポートが必要である。本提言を4つのサポートとしてまとめた。

4 意見交換（13:25～13:50）

（委員）

社会教育の本質が将来危ぶまれている中で、様々な民間の力を活用した知の循環型社会を構築していくことが重要だと感じている。教育基本法における生涯学習の理念である、学びの成果を適切に生かすことのできる社会の実現は特に重要であり、そこに繋がる具体的な施策を実現していただきたい。

発達上の特性を持つ子どもたちへの支援として、ノウハウに長けた民間企業等と連携した取組に繋げて行っていただきたい。

（委員）

厳しい環境の中には、例えばDVなど、なかなか声に出せない（出しにくい）状況にある

家庭も含まれている。そうした方々に対しても、地域に出てつながり、自分の弱みを見せることのできるような環境を整えてあげることができれば、改善に向けての次のステップにも繋がるし、子どものためにも良い方向に向かっていくのではないだろうか。だからこそ親子での体験の場は重要であると考えてる。

また、若い親世代と地域を繋ぐサポートも必要であり、地域で子育てをする気運が高まっていけば、多様な居場所をつくることにも繋がっていくと考えるので、多面的な方向性からの施策を検討いただきたい。

(委員)

運営している子ども食堂では、子どもと一緒にいる時間の確保をするように努めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、弁当を持ち帰ってもらうような対応をしている。子ども食堂を利用している子ども達は、会ったときに「おいしかったよ」などの声をかけてくれるので、食の支援だけでなく、地域とのつながりづくりの役割も担っていると感じている。今後は、学びの場となるような機能も兼ねることのできるようになっていけばよりよい方向に向かうと思うので、そのための支援に繋がる施策をを検討していただきたい。

(委員)

厳しい環境にある保護者の方々やそうした家庭の子ども達の抱えている苦しみは見えづらいが、その部分をしっかりと認識することが大切。

自分たち（PTAをはじめとする地域住民）も子どもたちを取り巻く地域の一員として、積極的に関わっていくことが求められている。そうした取組が点から線、線から面、面から球へと繋がるようにしていかななくてはならない。

子どもたちの成長を支える知の循環型社会の実現のためには、大人たちは子どもたちと一緒にあって取り組む必要があるので、今後ともPTAへの支援もお願いしたい。

(委員)

地域の役員をする中で、自分の子どもだけよければいいという保護者が増えてきてしまっていると感じている。

地域への入り方が分からないということであれば、入り口をつくるというようなサポートをしていけばよいのだが、そういった関わりすら拒絶してしまう保護者も少なくない現状があるように思う。

そうした家庭に対しても、学校や地域が両輪で支援していくことで、何か楽しいと感じる体験や経験をしてもらうことで輪を広げていくことはできないだろうか。

(委員)

地域を盛り上げていくために子どもたちを取り巻く環境の整備などを欠くことはできな

いが、多岐に渡る活動に対し、プログラム化して横に広げていくということはなかなか難しいところもある。

そうした中であっても、子どもたちが多くの成功体験を経験することは重要であるので、子どもたちを見守ってあげられるたくさんの場や、かっこいい大人の背中を見られるような環境は需要があるのではないか。

学校教育と連携することはもちろんのこと、学んだことをアウトプットできるような場の創出に繋げてほしい。

(委員)

子どもたちの成長のため中長期の宿泊体験は非常に有効であると感じているが、県内の小学校では1割程度に留まっている。また、子どもだけでなく親世代や学校の先生方自身も経験している体験が少ない部分もある。

民間と連携し、活動を広げていくことが重要であり、スタッフ養成研修をはじめとする支援が必要。

子どもたちがやりたいことを思いっきりできるよう、社会教育主事や地域学校本部などとも連携しつつ、サポート体制を充実させていって欲しい。

(教育委員)

企業ももっと直接的且つ具体的に、子どもたちの成長を支えていくための循環型社会にどう関わっていけるのかを考えなければならないと感じた。

(教育委員)

地域の中にいろいろな資源があることがわかった。高知大学の地域協働学部や高知県立大学の域学共生（高知県立大学が掲げる、地「域」と大「学」が「共」に「生」きていくための協働関係を築き、「大学が地域を変え、地域が大学を変える」という理念）然り、学生が地域に積極的に関わっていこうとすると高知県の大学の特徴でもある。高知県の強みでもある資源を繋ぐ地域協働の質が向上すれば、より発展していくのではないか。

(委員長)

他者と双方向の応答を切らさないこと、繋がりを絶やさないことが非常に重要。

3 閉会（13:50～13:55）

高知県教育長謝辞

【社会教育団体への補助金審査】

1 開会（14:10～14:15）

高知県社会教育委員長挨拶

2 協議（14:15～14:25）

（委員長）

それでは協議を始める。

令和3年度高知県社会教育団体への補助金について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

〈資料に基づき説明〉

（委員）

団体の人数も生徒数に伴い減少傾向が続く中で、消費税増額等様々な物価が上がり、今後の運営を見据えて会費の増額を検討しているところである。補助金ありきで運営を当たり前とするのではなく、団体の中でもそうした動きもあるので報告する。

（委員長）

その他意見はないようなので、以上で終了する。

次回は提言を受けて事業化に繋がった施策などの確認や報告会を予定している。

3 閉会（14:25～14:30）

生涯学習課長挨拶